令和４年度　第１回志摩市地方創生審議会　議事概要

日　時　　令和４年７月 28 日（金）
10：00 ～ 11：30
場　所　　志摩市消防本部５F １・２会議室

１．出席者（順不同・敬称略）
（１）　審議会委員(10 名)
牧谷拓、河本晃利、齋藤平（会長）、上村覚、清水久史、杉本公紀、東真由子、松井源紀、森本洋司、井上摩紀

（２）　事務局(４名)
箕浦勤、井上辻明、米奥宏規、西井將人

事項書１．あいさつ

【斎藤会長】
本日の議題でもある総合戦略により、人口減少対策を進めているところではありますが、なかなか人口減少に歯止めがかからない状況で、この会議を預かる身としては忸怩たる思いがあります。皆様のお知恵を借りながら、今後の人口減少対策に向け、議論を深めたいと思います。またデジタル田園都市構想の話もでてきているようですので、この機会に総合戦略を改めて見直していきたいと思います。

【事務局】
委員 15 名中 10 名の出席により会議が成立していることを報告（志摩市地方創生審議会条例第５条第３項)。志摩市地方創生審議会条例第５条第２項の規定に基づき、議事進行を齋藤会長に依頼。

事項書２．議事（１）第２期志摩市創生総合戦略に係る令和３年度の取組状況について

【※事務局より資料に基づき説明】
資料１に基づき、第２期志摩市創生総合戦略の令和３年度の KPI 実績について説明。

【齋藤会長】
地域とつながる教育の推進というところで、考え方としては、ここでは中学生・高校生が対象となっていますが、志摩市の魅力を引き継いでもらって、将来、志摩市に住み続けてもらうということを目標に据えていると思います。具体的にどういったことを中学生に未来教室では話をしていますか。

【事務局】

各地域のゲストティーチャーを手配して、全中学校の２年生を対象に、中学生未来づくり教室という授業を総合政策課で実施しています。構成としては、まず市職員から志摩市の現状とかそういったことを説明して、志摩市の自然豊かなところとか、実は全国的に知名度があるとか、いろんな観光地にスポットをあてて、志摩市の魅力を伝えています。また、現実として人口減少が起こっている中、持続可能なまちづくりに向け、大事なまちを守っていきたいという話を伝えさせています。次に、ゲストティーチャーからは、志摩市で働いて暮らしていくうえでの思いや、仕事に対する思い、そういう事を語っていただいて、子どもたちにこの地域で暮らしていくイメージを持ってもらえるようにしています。

【齋藤会長】

自然が豊かだからということだけでは、多分、若者の心に響かないと思います。やはり若者は、励まして夢を持たせるというか、このまちで自分たちが働きたい働き方が実現できるとか、響くようなお話をしてもらうほうが良いと思います。令和２年度のアンケートに、大きな商業施設が欲しいとかそういう答えもあったと思うが、子どもたちが本当に思っている心に響くようなお話をもっと含めていただきたい。

【清水委員】

社会減の抑制というところで、外国人の転出者が 30 名ということだが、転入者数・転出者数、例えば年代別とかどういった方々が転入してされてくるのか、どういった方々が転出されていくのか、また、若い人たちが出て行っているのなら何か要因があるのかとか、逆に転入者の方々がどういった方々が転入されているのかというような考察というか、何かそういった統計とか取っていますか。

【事務局】

統計の数字については、いろいろな統計があり、一応、それぞれの年代ごとの転入出の状況というのは出ています。例えば令和３年で申し上げると、これは別の統計になるので資料と数字が異なりますが、約 350 人の社会減が出ている中で、約 200 人が 20 代、30 代が 60 人ちょっと、10 代が 80 人ほど。10～30 代くらいでほぼほぼ社会減の要因になっており、20 代が一番多いという状況です。一般に言われるように、進学が大きいと思いますが、住民票を異動されずに大学に通ったりする方もいるので、そういう意味で統計上の社会減というのは 20 代の方が大きくなっているという状態です。本当は月単位であるとか、細かい属性など調べなければいけないと思っていますが、今は大まかなデータしか持っていないのが実情です。

【清水委員】

人口減少の対策に向けては何か仕掛けが必要なのではないかと、最近、津餃子のニュースを聞いてふと考えました。もともと津餃子は学校給食から始まったものですが、今は、大きく盛り上がり、観光客や、それに参加する事業者が増えているようです。人口減少対策のために、進学の部分・就職の部分を盛り上げていくためには、仕掛けをしないといけないということは一緒なのかなと思いました。何もしなければそのままなので、地域で何かを作り上げることが必要だと思う。

【齋藤会長】
統計データを分析するのであれば、件数については転出先についても調べていただきたい。全国の地方都市に共通することだが、たいてい転出してしまうのは20代女性。そのことをどう抑制できるかということに、全ての自治体が取り組んでいます。ただ、なかなか妙案がでないというところにこの問題の大きな根幹に関わるところがあるのではないかなと思います。都市に出ていかなくてもデジタルの力で住み慣れたまちで仕事ができるっていうところが今度のデジタル田園国家構想ですけども、その方法を具体的にどうやって若者に見せることができるかという点がこれからの勝負なのかなと思うところです。

【河本委員】
関係人口の創出のところで、ワーケーションで訪れた事業者数というのが、令和 3 年度は目標値が５件に対して、23 件という数で、かなり多く、喜ばしい数字ですが、この 23 件という数字はどのように把握したものですか。

【事務局】
ワーケーションの数字は、市が直接かかわったものをカウントしています。市のワーケーションの推進事業として実施した福利厚生のプロモーション業務の関係とか、市と連携協定を結んでいる企業、例えば日本航空の関係でワーケーションをやっていただいた部分があります。他にも、近畿日本ツーリストなど、地域活性化企業人制度で志摩市の職員として働いていただいている方の関係とか、そういった関係で来ていただいた企業の数をカウントしています。特に今一番多かったのが近鉄不動産の関係の実証事業の中で来ていただいたのが 20 社近く。そういったことで、計 23 件という形になっています。

【河本委員】
そうすると、網羅的に把握したというよりは、まだこの数値よりも実際のワーケーションの数は多いという理解でよいですか。

【事務局】
あくまで市が把握している範囲のことであり、もちろんそれ以外の企業も独自でワーケーションに取り組まれていると思います。企業独自でホテルのワーケーションプランを活用して、お越したいただいたケースは他にももっとたくさんあると思います。ただ、数値としては、市として推進しているという意味の中で、市として関与しているところを数値として挙げています。

【河本委員】
転勤族なので、日本全国のいくつかのまちで暮らしたことがあるのですが、大体地元の良さを地元の人は知らないことが多いと思います。関係人口の創出を考えると、外から来た方にある程度の滞在をしていただいて、地域の良さを見つけていただき、ファンになってもらうことが大事です。ワーケーションについては、環境省でも力を尽くしているが、今後ますます伸びていくことを期待しています。

【杉本委員】

働く場所をつくるというところですが、志摩市ふるさとハローワークの関係ですと、就職の件数ということで、実績値は令和 3 年度 371 件、令和 2 年度 325 件ということで、コロナの拡大で数値が低くなって、それから就職率に影響がでているところですが、今後、またこのような状況に対し、志摩市と連携して対応していきたいです。実際、志摩市は観光産業が多いなかで、コロナ禍で求人少なくなっていたが、最近また増えてきています。企業の誘致の推進の関係で、空き公共施設を活用した企業誘致等を含め、工夫しておられると思うが、実際に誘致を加速させるための戦略等は具体的に動いているのかお聞きしたい。

【事務局】

志摩市は、立地的に高速道路から遠いといったことも含めて、難しいところもあるので、志摩市に合う企業を探して誘致することが大切だと考えています。その中で、サテライトオフィスの取組を昨年度も実施しています。最近は、デジタル技術により志摩市にいても仕事ができる会社もあるので、場所を選ばない企業を誘致していくことが一つのポイントとなります。具体的な支援制度がどの程度できているか担当課に聞けていないが、学校統廃合も進み、空き公共施設はいくつかあるので、空き地と併せてうまく活用することが重要です。さきほど申し上げたようなＩＴ企業以外にも志摩市で成立するものもあると思うので、志摩市の持っている物件の情報をしっかり整理していく。そういう状況であると思います。

【松井委員】

企業誘致や、企業の中の IT 関係の方が志摩市に来て仕事ができるということもいろいろ考えていただいていると思いますが、来ていただく場所について、市として、各町で何か所か整備してそれらを売り込んでいかないといけないのではないでしょうか。志摩市といえば、海岸沿いの漁師が多いところでは家屋が小さいものが多いです。一方、今まで企業誘致に成功したところは結構山間部が多い。農業をやっているところはお家も大きいという事も含めて、ある程度、来ていただくためには環境を整えるということも重点的に考えていただきたい。また、人口流出については、やはりどうしても働く場所がないということで市外へ出ていきます。働いている場所が少し遠方であるために、通勤が楽なように、伊勢や松阪に住宅を求めます。高校に進学するとき、大王から伊勢まで通うことを考えると、伊勢にアパートを借りて住んだ方が、効率がいいということで移り住む方もいます。志摩市は災害に関しても、津波に脆弱な都市なので、もう少し標高の高いところに移り住んでいくという事も非常に多い。

波切のひとつのグループが一般社団法人として、大王崎を活性化するということで、若い方がいろいろな事業に取り組んで頑張っています。私も携わっていますが、QR コードでスタンプラリーもやっていて、最初はそんなものは若い人しかやらないのではないかと考えていたのですが、実際にやってみたら結構年配の方がスタンプラリーをされて景品を持っていく。これは考え方を変えなきゃいかんなと、ちょっと目からうろこというところもあります。それから今、重点的に取り組んでいるのが買い物弱者と交通弱者。月に１回、軽トラ市をやるとか、買い物マップの作成であるとか、高齢者が買い物しやすくなるようなことにも取り組んでいます。それから波切は鰹節がありますが、かつおの天白さんが国の文化財に登録の申請をしているという事で、そういう観光的な材料もいろいろあります。その辺のところで若い人を惹きつける。そしてもう１つは、お年寄りに都会から移り住んでもらって一つのコミュニティみたいなものが作れるようなところがあればいいなと思っています。都会に住んでいる高齢の夫婦がのどかに過ごせる場所も考えて

いったらいいと思います。次世代を担う若者は大事だけれども、高齢の人たちが楽しくまちの中に溶け込んでいけるようなまちづくりもあってもいいのかなと思います。その辺のところも市の方で考えて実行に移していただくとありがたい。

【森本委員】

私の住んでいる五知でも、周りを見ると空き家がやはり多くなっています。でも、故郷から出た方が戻ってきます。嫁いだ方が都会に出ていたが、子育てを全て終わって、懐かしがって毎週のように帰ってきます。第二伊勢道路ができてからはものすごい交通量で、伊勢から志摩に帰ってくる夕方の時間がすごいです。朝方は、伊勢道路も混むし第二伊勢道路も混みます。ところが伊勢へみんなが行くのかなと思いきや、そうでもない。伊勢の方は津へ行く。結局、若い人はより都会の方に魅力を感じるようです。そういう意味では、志摩としては、お年寄りにも目を向けていくべきかと思います。私も、週に４回ばかりテニスをやっていますが、良く似た年代の 70 歳以上の人が多いです。志摩市はゴルフ場もたくさんある。何が言いたいのかというと、そこに来る人は、意外に遠くから、よそから来た人が多い。志摩市出身の同年代の人が何をしているかというと、パチンコに行くか、家で酒を飲んでいるくらい。よそから来た人は、趣味に貪欲で、積極的に外に出ていく。それともう一つ、鵜方にライトボディというスポーツジムがあるんですが、サンライフを閉鎖した加減もあって、結構人がいます。私とよく似た年代の人がいるんですけれど、機械で走ったり、あるいは風呂に入って最後はマッサージ機をやったり、ヨガをやったりとか、いろいろやっています。それに比べて、やや言い方が悪いですけれど、公的な施設というのはあまり充実していないイメージがある。だから、そういうところを見習って、ふれあい公園も改修したら良い部分をどんどん発信して、どんどん人を集めた方がよいと思う。高齢者がたくさん集まれば、若い人も来てくれるのではないか。

デジタル田園都市構想については、すべての課題を解決してくれる素晴らしい方法かなと思いますが、高齢の方はみんながデジタルに精通しているかと思うとそうでもない。この辺は学習が重要になるとと思います。それから市は直接関与していないけれど、シルバー人材の仕事をやっている人も随分ある。特に観光産業の振興の部分でもシルバーの活用は重要です。

そういう面で、総合戦略の人の育成、観光、まちの発展・形成、仕事の強化・創業、生涯学習、スポーツの振興をどんどんやれば、志摩市にどんどん人が増えます。健康づくり、介護予防、これも総合戦略に書いてあるけれども、こういったことで、お金持ちの高齢者がどんどん戻ってきてもらえばいいと思います。

それと最後に、この中に出会い・結婚の支援というものがありますけども、これは一番魅力的かなと思います。まちが明るくなります。アリーナにいくと、イベントの周知チラシもいろいろありますけども、一番いいのは、テレビ、新聞等でどんどん発信することかと思います。マスコミを使って行くというのも戦略的に面白いかなという感じがします。60 歳、70 歳以上の結婚をゆったりと目指すつもりで、是非とも、よその市町の真似じゃなくて志摩独自の良さをだしてほしいです。

【井上委員】

学校の環境整備事業について、前年度に１人１台タブレットを整備したと書いてありますけど、前の会議の時に校長先生が、「担当の先生の分はあるけど、副担当の先生の分が無いので欲しい」と言っていましたが、整備できたのでしょうか。

【事務局】
学校の教員用のタブレットについては、教員全員の分があるわけではないという状況はもちろん市の方でも把握しておりまして、教育委員会事務局も、改善に向けてきちんと対応は検討しているところです。今整備されているかというとまだ整備はされていませんが、もちろんそこは把握した上で対応を考えているという状況です。

【上村委員】
これからの志摩市の人口減をどうやって防ぐか考えるうえでは、小学校や中学校が大きく関わると思います。学校統合が行われたことで、少し前は 29 あった小中学校が現在 13 までなりました。私の勤務する東海小学校も５校が統合したのですが、南勢志摩地域の中でも、これだけの統合というのはなかなか無いというところです。私もその中の志島という小さな村の生まれなんですけど、実家へ帰ると、「子どもの声が聞こえなくなったな、寂しいなあ」とよく言います。近所の中でもそういうような事はよく聞きます。ただ、学校統合の前、教育活動を 20 数名～30 名でやっていて、小学校高学年になってもサッカーが同じ学年でできない、野球ができないという中で、学校生活を送っていました。今はその子たちが 307 名の中で生活する事で、これまでできなかった経験というものをたくさんしています。友人関係で悩んだ時に、別の友達がいるクラスの中で生活するなどプラスの面も非常に出ていると感じます。ただ、残念な事に、かつてであれば安乗の文楽を地域の方と小学生・中学生が一緒にやるとか、全校児童で船に乗って伊勢エビ漁に行くとか、立神の真珠作りを子どもたちが一緒にやるというような活動は、流石にこの規模になるともうできません。そこに行くためにバスを２台チャーターするとなると、そこに何十万というお金がかかります。新たな地域との連携を模索しながら、新しい学校が始まったところに、コロナの大打撃が来まして、それが出来ない中で悩んでいるところです。一つの打開策としては、今年度、教育委員会でコミュニティスクールを全ての小中学校で行うということで、どのように地域と関わった学校作りをしていくかというところを今後考えていきたいなと思います。この資料にもありましたけども、先日、学校給食の生産者交流会という形で、サバの冷凍食品の社長さんが来てくださり子供たちに話をしてくれました。安乗のサバの一日の漁獲量を聞いた子供たちはびっくりしていました。三重県が全国 5 番目で、そしで安乗の漁獲量は県内でも有数であるという事を、安乗の子たちは今まで聞いた事がなかったんです。今日話題に出ていましたけども、志摩に住んでいる子どもたちが志摩のすごさを知らない。志島の市後の浜に行きますと、私の同級生は昔からサーフィンをしているんですけれども、「志摩の海のすごさを、素晴らしさを知らないのは志摩の子どもたちだ」という事をよく言いました。ですので、小学校・中学校は地域のよいところを伝える場をたくさん作っていかなくてはならないなと思っています。ここで、市でもお考えいただきたいのですが、学校でそういった授業を展開することが多いんですけれども、他の自治体へ行って話を聞きますと、学校を飛び出して地域でそういうイベントをするということなんです。私の感覚では、学校が協力しないと誰も来ないだろうと思うんですけれど、ところが人が集まるんです。多分そこの市民の方たちは、いろいろな情報発信をキャッチする経験が多くて、そしてそういった場をたくさん上手く作っていくという経験をされているんだろうと思います。最初のうちはなかなか集まらないかも分かりませんけども、例えば、この地域の良さを知るために、地域で小学生を対象にこういう授業をするよということを地域と共にやっていただく。そこに学校ももちろん協力させていただきますが、そういう授業を展開することで子どもたちが地域

の良さを知っていく。そういったことを積み重ねることが大事かと思います。

子どもたちに夢を聞くと、小学生ですので、「野球選手になりたい」と言う。じゃあどうするのと聞いたら、「志摩の高校には行かない」という話が出てきます。「サッカー選手になりたい」と言ったら、「志摩の高校には行かない」という選択肢になる。様々な子どもたちが夢を持った時に、最初に会長がおっしゃったように、その夢を実現する術っていうのが残念ながらこの志摩の中には見つかっていないという現実があるのも事実だと思います。ですので、いろんなところで 1 回は外へ出るというのも致し方ない部分もあると思います。志摩市民としてではなくて、志摩市の応援市民みたいな形の子どもたちというのは、これからも残念ですけど増えていく気はがします。ただ、やはりさっき話にありました、20 代の転出がすごく多いということを考えると、高校へ行って、その先の大学や専門学校へ行った子たちが、自分の将来を選択する時に、ひとつ志摩市という選択肢ができるように何か手立ては打てないのかなと考えます。先日、学校の職員と話をしていたら、「私の同級生で大学を出て志摩市にいるのは、市役所に勤めるか学校の教員だけです。」というような話をしておりました。そこのところに何か打つ手はないのかなとすごく考えております。ひとつきっかけになるのは、このコロナ禍の中で、ギガスクール構想によってタブレットというものに子どもたちは非常に興味関心を持っていますし、学校もそこに応援をしています。ネットの世界を使えば、決して都会にいなくても起業はできますし、実際に志摩市の中にもそういう面で起業して成功している方がいらっしゃると思うので、そういう方たちが子どもたちのひとつのモデルになっていけばいいのかなというふうに思いました。中学校の職場体験というのをずっとしていますけど、今まで地元のお店や働く場所で体験させていただいていたんですけども、先日の校長会で教育長がおっしゃったのは、「その中に志摩市の起業した方たちの出会いというのをひとつ考えてほしい」という話がありました。こういった取組というのはひとつのチャンスになるのかなと思います。「志摩市でもこういうことはできる」というようなモデルを子どもたちに学校もまた頑張って伝えていきたいと思いますので、いろんな方々から伝えていただくと子どもたちが夢を持って将来を考えられるようになるかなと思っています。

【牧谷委員】

農林業の振興というところで、農業生産者育成事業の実績とあるんですけども、私も営農継続支援対策事業で支援いただきました。この事業で去年はミニトマトを育てているベッド、古く 10 年以上使っていた栽培するベッドを入れ替える作業で、この事業の支援ですごく助かりました。その前の年もビニールの張替えとかもこの制度を使ってすごく助かりました。これを使ってすごく助かっている農家はいるので、また継続をお願いします。本当に農業は先にお金がかかることが多くて、作る前の段階ですごくお金がかかってきます。材料だったり資材・施設にお金がかかって、その後に生産物が出来てくるんですけど、その生産物も毎年のように変な気候で、水害を受けるとか台風で飛ばされちゃうとか寒かったり暑かったりで、なかなか作りにくい気候になってきていて、すごく助かっています。あと、個人的なことで、若者の健診授業がありますが、7 月くらいに、30 代の人を集団にして「健康診断を受けますか」みたいなハガキが届くんです。電話かネットで申し込めるんですが、なかなか集団の健診の日に予定が合わないんです。農業をしているとなかなか健康診断とかする機会がないので、個人でも受けられるようになると嬉しいです。

【東委員】

ちょっと教えていただきたいんですけども、情報発信の強化という項目におきまして、評価がAという形で、私も情報発信に関わる者のひとりとして、志摩市の努力をこちらで見ておりますのですごく喜ばしいことに思うんですけども、市のホームページのアクセス数、インスタグラムのフォロワー数と数字が出ているのですが、志摩市にはアプリ、観光しまというLINEのアカウント等もあると思うのですが、こちらの方の数字の把握はどういうような感じでしょうか。

【事務局】

インスタグラムについては、コンテンツも担当職員が充実させていて、この夏もキャンペーンをするということで進めています。SNSというのは重要になっていますので、戦略的にその辺に力を入れてやっています。もうひとつは動画配信で、YouTubeも最近力を入れています。ケーブルテレビの中で番組を作っていますが、なかなか若い人に長い映像を見ていただくのは難しい感じがあるので、短い動画を作っていくみたいなことも力を入れてやっています。

なお、Facebook、観光しまの関係ですが、フォロワーは約5,100名前後です。それとインスタも7,100名前後です。他にもTwitterとか、情報を欲しい人が得られるように間口を広げてやっております。SNSも有名な方がやっておられると何万人という数字が出てくるので、それと比べると少ないと感じると思いますが、県内の自治体の中で比べてみますと、この数字というのは非常に多いです。その辺りは志摩市としても自信を持って言えるところかなと思っています。ただ、この人数で満足しているわけではありませんので、どんどん増やしていきたいと思っているところです。

【東委員】

SNSのほかにも、志摩市のアプリに関しては、地域の方々にとってはかなり使いやすくて、情報発信についても行っていただいていますが、ダウンロードしてもらう必要があります。一方、伊勢市では市の公式LINEを運用されています。LINEに関してはかなり高齢の皆さんについてもスマートフォンユーザーの場合は欠かせないアプリになってきているかなと思いますので、志摩市でもLINEアカウントをこういうふうに入れてもらったらどうかと思います。志摩市のアプリもダウンロードしていただいたら、すごく見やすくて使いやすく作っていただいていると思いますので、ダウンロード者数というのをもう少し増やすことができれば、情報発信もイコールで繋がっていくと思うのかなと思います。志摩市のアプリも、市内各所にもっとアプリのダウンロードQRコードを設置したりとか、観光しまのLINEアカウントについては、本当にお洒落に作ってもらっていて、インスタにも直結できるのですが、あまり知られていないというのがすごくもったいないと感じます。私の会社の営業エリアとしては、志摩市以外に松阪市それから大台町、大紀町、多気町、明和町の2市4町を含むんですけども、その中の大紀町は、志摩市よりもずっと山奥で交通も不便であったりしますが、インスタなどのデジタル戦略に力を入れていまして、インフルエンサーを誘致したりしています。2千人以上のフォロワー数を持っているインフルエンサーに声をかけて大紀町に来ていただいて、こういう事が体験できますとか、こういうスポットで散歩ができますとか紹介して、滞在費用をすべて持つ代わりに、いくつかのコンテンツをハッシュタグで投稿してもらっています。このようなことをすれば、コンテンツのブラッシュアップとか、新たな世代にアピールしていけるかなと思いました。

先ほどの志摩市公式インスタグラムのフォロワーが7千件程度という話でしたけども、ハッシュタグの投稿数で見ますと、「志摩市」というハッシュタグにおいては10万件以上の投稿があり

ますし、「志摩」だけでも 14.9 万件という形でかなり数が多くなっています。「志摩」というコンテンツは、若い世代にとってかなり誇れるものかなと思います。弊社としても、内外に発信していく事は絶対にしていきたいと思いますし、市でもそういったところにより力を入れてもらいたいかなと思いましたので発言させていただきました。

志摩市は、かなり早い段階から SDGs に取り組んでいらっしゃいますが、70 歳を超える母から、私が分別せずに家のごみを捨てたりすると、「今は SDGs の時代なのに恥ずかしい」みたいなことを言って怒られたりします。そんなことがあると、この世代が SDGs という言葉を日常的に使うようになったんだなと感じます。志摩市は全国的にもかなり先駆けて SDGs を掲げていますが、その中で SDGs パートナーズの取組は本当にいいなと思います。SDGs に取り組んでいることを評価して欲しいと思っている市内外の企業がこちらに登録されていますが、ああいった形で評価してもらえたり、取組を知ってもらえたり、SDGs の取組の領域を広げられるというのはどんどんやってほしいという意見もありましたので、この場でご報告させていただきます。

【事務局】

皆様から一通り発言をいただので、審議を終えたいと思います。本日のご意見は、総合戦略の取組の PDCA サイクルの中において生かしていただければと思います。

事項書２．議事（２）地方創生に係る国の財政支援制度の活用状況について

【※事務局より資料に基づき説明】

資料２に基づき、地方創生に係る国の財政支援制度の活用状況について説明。

【齋藤会長】

特にご意見が無さそうですので、次の議事に移ります。

事項書２．議事（３）デジタル田園都市国家構想基本方針について

【※事務局より資料に基づき説明】

資料３に基づき、デジタル田園都市国家構想基本方針について説明。

【齋藤会長】

特にご意見が無さそうですので、事項３その他に移ります。

事項書３．その他

事務局より事務連絡

以上